

9課

罪、福音、律法

5月30日

安息日午後

5月23日

暗証聖句

わたしはあなたの命令をどこしえに忘れません/それによって命を得させてくださったのですから。わたしはあなたのもの。どうかお救いください。あなたの命令をわたしは尋ね求めます。(詩編 119:93、94、新共同訳)

わたしは常にあなたのさとしを忘れません。あなたはこれをもって、わたしを生かされたからです。わたしはあなたのものです。わたしをお救いください。わたしはあなたのさとしを求めました。(詩篇 119:93、94、口語訳)

今週の聖句

士師記 14 章、マルコ 9:42~48、ローマ 3:20、マタイ 5:17、18、ローマ 3:28、マタイ 7:24~29

今週のテーマ

間違いなく、罪は、神との親しい関係を妨げる最大の障害です。罪は、現時点において私たちが神から隔てるだけでなく(イザ 59:2)、私たちが欺き、傷つけ、むしばみ、最終的には滅ぼします。罪や利己心との戦いは、私たちが直面する最大の戦いであり、計り知れない、かつ永遠に及ぶ影響を伴います。

罪を人生の一部分にすぎないと片づける人もいます。結局のところ、快樂にふけるのは人間の本性だということです。しかし、社会が罪を当たり前のこととして受け入れているために、私たちは罪を軽く見ていないでしょうか。罪という話題を避けたり、罪をありのままに罪と呼べば、だれかを傷つけるのではないかと恐れたりすることがあり得ます。そして結局のところ、罪を許容して生きようとするればするほど、神との健全な関係から遠ざかってしまいます。

確かに、すべての人が罪を犯し、私たちの考え、動機、行動、言葉は、ほかの人、自分自身、そして神を傷つけます。最終的に、罪は神との関係を破壊しますが、神はご自身の律法を知ることを通して、ご自身を私たちに啓示されました。律法は私たちの人生に潜む罪を明らかにします。

今週は、神が律法を与えられた理由と、神の律法を破り、罪を犯したときに、神との関係を回復するために何が、あるいは誰が助けとなるかを探ります。

イザ 59:2 (新共同訳)

59:2 むしろお前たちの悪が/神とお前たちとの間を隔て/お前たちの罪が神の御顔を隠させ/お前たちに耳を傾けられるのを妨げているのだ。

イザ 59:2 (口語訳)

59:2 ただ、あなたがたの不義があなたがたと、あなたがたの神との間を隔てたのだ。またあなたがたの罪が主の顔をおおったために、お聞きにならないのだ。

日曜日 5月24日 気晴らしと誘惑

問1 サムソンの誘惑について、士師記 14 章と 16:1、4、16、17 を読んでください。特別な目的のために神に召されたサムソンでしたが、誘惑に屈しながらも神に仕えました。彼の人生の結末は、私たちにどんなことを教えているのでしょうか。

大争闘は現実であり、私たちはみな、その戦いに巻き込まれています。天で始まったこの宇宙的な戦いは、今、私たち1人ひとりの人生の中でも繰り広げられているのです。

サタンは、イエスが来られる直前のこの時代に、私たちが神と親しい関係を持たないようにするために、あらゆる手段を尽くすべきことを知っています。もしかしたらあなたは、それ自体は必ずしも悪いことではなくても、あまりにも多くの時間やエネルギーを奪い、神にささげるものがほとんど残らなくなるような何かに気を取られているかもしれません。それは、仕事、ソーシャル・メディア、買い物、スポーツ、あるいは食べ物なのかもしれません。自分自身のことをよく考えると、私たちは先に挙げたものの過度の消費やバランスの欠如によって、神と他者のための時間をほとんどなくしてしまうことに気づきます。敵は、私たち1人ひとりの弱点や、神と過ごす時間を奪うものを知っています。私たちは、日々の生活やすべての物事を慌ただしく始める前に、まず神を求めることを忘れてはなりません(マタ 6:33)。

イエスは私たちの状態を理解していますが、私たちの無関心を叱責されます(黙 3:14~22)。イエスは神でありながら、私たちと同じように疲れを感じる人間でもありました(ヨハ 4:6)。私たちと同じように人生の重圧を知っていましたが、1人で父なる神に祈ることで、しばしば安らぎを得られました(ルカ 5:16、6:12、マコ 1:35、マタ 14:23)。誘惑と戦う力を再び得るためには、父なる神と過ごす時間こそが最善であることを、イエスは知っておられたのです。それは私たちにとっても、最善、かつ最も確実な方法です。

サムソンは、自分が強いと思っていたために墮落しました。彼は、誘惑に打ち勝つために自分の力に頼ってしまいました。魂の敵が私たちと神との関係を弱め、破壊しようとする中、私たちも日々罪との戦いに直面します。悪魔は私たちの弱さを知っており、そこに狙いを定めて神との関係を鈍らせ、罪悪感や自分には価値がないという感情を抱かせようとします。これらはすべて私たちを神から遠ざける原因になります。悪魔は私たちの思考、意図、行動を歪め、人生のどこかに砦を築こうとするのです。しかし、忘れないでください。信仰は私たちを支え、信仰は神の言葉を聞くことによって生まれるのです。

【参考】英語テキストにある文

What are you struggling with now? How can the Word of God help you right now?

今、あなたはどんなことで悩んでいますか。神の言葉は今、どのようにあなたを助けることができるでしょうか。

61

士師 14 章 (新共同訳)

14:1 サムソンはティムナに下って行ったが、そのティムナで一人の女、ペリシテ人の娘に目をひかれた。

14:2 彼は父母のところの上って行って、「ティムナで、一人の女、ペリシテ人の娘に目をひかれました。どうか彼女をわたしの妻に迎えてください」と言った。

14:3 父母は言った。「お前の兄弟の娘や同族の中に、女がないとでも言うのか。無割礼のペリシテ人の中から妻を迎えようとは。」だがサムソンは父に、「彼女をわたしの妻として迎えてください。わたしは彼女が好きです」と願った。

14:4 父母にはこれが主の御計画であり、主がペリシテ人に手がかりを求めておられることが分からなかった。当時、ペリシテ人がイスラエルを支配していた。

14:5 サムソンは父母と共に、ティムナに向けて下って行った。ティムナのぶどう畑まで来たところ、一頭の若い獅子がほえながら向かって来た。

14:6 そのとき主の霊が激しく彼に降ったので、彼は手に何も持たなくても、子山羊を裂くように獅子を裂いた。しかし、彼は自分の行ったことを父母には言わなかった。

14:7 彼は、女のところに下って行って言葉かけた。サムソンは彼女が好きであった。

14:8 しばらくして彼は彼女を迎えに戻って行ったが、あの獅子の屍を見ようと脇道にそれたところ、獅子の死骸には蜜蜂の群れがいて、蜜があった。

14:9 彼は手で蜜をかき集め、歩きながら食べた。また父母のところに行ってそれ

士師 14 章 (口語訳)

14:1 サムソンはテムナに下って行き、ペリシテびとの娘で、テムナに住むひとりの女を見た。

14:2 彼は帰ってきて父母に言った、「わたしはペリシテびとの娘で、テムナに住むひとりの女を見ました。彼女をめぐってわたしの妻にしてください。」

14:3 父母は言った、「あなたが行って、割礼をうけないペリシテびとのうちから妻を迎えようとするのは、身内の娘たちのうちに、あるいはわたしたちのすべての民のうちに女がないためなのですか」。しかしサムソンは父に言った、「彼女をわたしにめぐってください。彼女はわたしの心にかないますから」。

14:4 父母はこの事が主から出たものであることを知らなかった。サムソンはペリシテびとを攻めようと、おりをうかがっていたからである。そのころペリシテびとはイスラエルを治めていた。

14:5 かくてサムソンは父母と共にテムナに下って行った。彼がテムナのぶどう畑に着くと、一頭の若いししがほえだけて彼に向かってきた。

14:6 時に主の霊が激しく彼に臨んだので、彼はあたかも子やぎを裂くようにそのししを裂いたが、手にはなんの武器も持っていなかった。しかしサムソンはそのしたことを父にも母にも告げなかった。

14:7 サムソンは下って行って女と話し合ったが、女はサムソンの心になかった。

14:8 日がたって後、サムソンは彼女をめぐろうとして帰ったが、道を転じて、かのししのしかばねを見ると、ししのからだに、はちの群れと、蜜があった。

14:9 彼はそれをかきあつめ、手にとって歩きながら食べ、父母のもとに帰って、

を差し出したので、彼らも食べた。しかし、その蜜が獅子の死骸からかき集めたものだとは言わなかった。

14:10 父がその女のところに下って来たとき、サムソンは若者たちの習慣に従い、宴会を催した。

14:11 サムソンを見て、人々は三十人の客を連れて来てサムソンと同席させた。

14:12 サムソンは彼らに言った。「あなたたちになぞをかけたい。宴会の続く七日の間にその意味を解き明かし、言い当てるなら、わたしは麻の衣三十着、着替えの衣三十着を差し上げる。

14:13 もし解き明かせなかったなら、あなたたちが麻の衣三十着と、着替えの衣三十着を差し出すことにしよう。」彼らは、「なぞをかけてもらおう。聞こうではないか」と応じた。

14:14 サムソンは言った。「食べる者から食べ物が出た。強いものから甘いものが出た。」彼らは三日たっても、このなぞが解けなかった。

14:15 七日目になって、彼らはサムソンの妻に言った。「夫をうまく言いくるめて、あのなぞの意味を我々に明かすようにしてほしい。さもないと、火を放ってあなたを家族もろとも焼き殺してやる。まさか、我々からはぎ取るために招待したわけではないだろう。」

14:16 サムソンの妻は、夫に泣きすがって言った。「あなたはただわたしを嫌うだけで、少しも愛してくださらず、わたしの同族の者にかけたなぞの意味を、このわたしにも明かそうとなさいません。」彼は答えた。「父にも母にも明かしていないのに、お前に明かすわけがないだろう。」

14:17 宴会が行われた七日間、彼女は夫に泣きすがった。彼女がしつこくせがんだので、七日目に彼は彼女に明かしてしまった。彼女は同族の者にそのなぞを明かした。

彼らに与えたので、彼らもそれを食べた。しかし、ししのからだからその蜜をかきあつめたことは彼らに告げなかった。

14:10 そこで父が下って、女のもとに行ったので、サムソンはそこにふるまいを設けた。そうすることは花婿のならわしであったからである。

14:11 人々はサムソンを見ると、三十人の客を連れてきて、同席させた。

14:12 サムソンは彼らに言った、「わたしはあなたがたに一つのなぞを出しましょう。あなたがたがもし七日のふるまいのうちにそれを解いて、わたしに告げることができたなら、わたしはあなたがたに亜麻の着物三十と、晴れ着三十をさしあげましょう。

14:13 しかしあなたがたが、それをわたしに告げることができなければ、亜麻の着物三十と晴れ着三十をわたしにくれなければなりません。」彼らはサムソンに言った、「なぞを出さない。わたしたちはそれを聞きましょう。」

14:14 サムソンは彼らに言った、「食らう者から食い物が出、強い者から甘い物が出た。」彼らは三日のあいだなぞを解くことができなかった。

14:15 四日目になって、彼らはサムソンの妻に言った、「あなたの夫を説きすずめて、なぞをわたしたちに明かすようにしてください。そうしなければ、わたしたちは火をつけてあなたとあなたの父の家を焼いてしまいます。あなたはわたしたちの物を取るために、わたしたちを招いたのですか。」

14:16 そこでサムソンの妻はサムソンの前に泣いて言った、「あなたはただわたしを憎むだけで、愛してくれません。あなたはわたしの国の人々になぞを出して、それをわたしに解き明かしませんでした。」サムソンは彼女に言った、「わたしは自分の父にも母にも解き明かさなかった。どうしてあなたに解き明かせよう。」

14:17 彼女は七日のふるまいの間、彼の前に泣いていたが、七日目になって、サムソンはついに彼女に解き明かした。ひどく彼に迫ったからである。そこで彼女はなぞを自分の国の人々にあかした。

14:18 七日目のこと、日が沈む前に町の人々は彼に言った。「蜂蜜より甘いものは何か/獅子より強いものは何か。」するとサムソンは言った。「わたしの雌牛で耕さなかったなら/わたしのなぞは解けなかっただろう。」

14:19 そのとき主の霊が激しく彼に降り、彼はアシケロンに下って、そこで三十人を打ち殺し、彼らの衣をはぎ取って、着替えの衣としてなぞを解いた者たちに与えた。彼は怒りに燃えて自分の父の家に帰った。

14:20 サムソンの妻は、彼に付き添っていた友のものとなった。

士師 16:1、4、16、17 (新共同訳)

16:1 サムソンはガザに行き、一人の遊女がいるのを見て、彼女のもとに入った。

16:4 その後、彼はソレクの谷にいるデリラという女を愛するようになった。

16:16 来る日も来る日も彼女がこう言ってしつこく迫ったので、サムソンはそれに耐えきれず死にそうになり、

16:17 ついに心の中を一切打ち明けた。「わたしは母の胎内にいたときからナジル人として神にささげられているので、頭にかみそりを当てたことがない。もし髪の毛をそられたら、わたしの力は抜けて、わたしは弱くなり、並の人間のようにになってしまう。」

マタ 6:33 (新共同訳)

6:33 何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。

黙 3:14~22 (新共同訳)

3:14 ラオディキアにある教会の天使にこう書き送れ。『アーメンである方、誠実で真実な証人、神に創造された万物の源である方が、次のように言われる。

3:15 「わたしはあなたの行いを知っている。あなたは、冷たくもなく熱くもない。むしろ、冷たいか熱いか、どちらかであってほしい。

3:16 熱くも冷たくもなく、なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そうとしている。

14:18 七日目になって、日の没する前に町の人々はサムソンに言った、「蜜より甘いものに何があるう。ししより強いものに何があるう」。サムソンは彼らに言った、「わたしの若い雌牛で耕さなかったなら、わたしのなぞは解けなかった」。

14:19 この時、主の霊が激しくサムソンに臨んだので、サムソンはアシケロンに下って行って、その町の者三十人を殺し、彼らからはぎ取って、かのなぞを解いた人々に、その晴れ着を与え、激しく怒って父の家に帰った。

14:20 サムソンの妻は花婿付添人であった客の妻となった。

士師 16:1、4、16、17 (口語訳)

16:1 サムソンはガザへ行って、そこでひとりの遊女を見、その女のところにはいった。

16:4 この後、サムソンはソレクの谷にいるデリラという女を愛した。

16:16 女は毎日その言葉をもって彼に迫り促したので、彼の魂は死ぬばかりに苦しんだ。

16:17 彼はついにその心をことごとく打ち明けて女に言った、「わたしの頭にはかみそりを当てたことはありません。わたしは生れた時から神にささげられたナジルびとだからです。もし髪をそり落されたなら、わたしの力は去って弱くなり、ほかの人のようになるでしょう」。

マタ 6:33 (口語訳)

6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

黙 3:14~22 (口語訳)

3:14 ラオディキヤにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『アアメンたる者、忠実な、まことの証人、神に造られたものの根源であるかたが、次のように言われる。

3:15 わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。

3:16 このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう。

3:17 あなたは、『わたしは金持ちだ。満ち足りている。何一つ必要な物はない』と言っているが、自分が惨めな者、哀れな者、貧しい者、目の見えない者、裸の者であることが分かっていない。

3:18 そこで、あなたに勧める。裕福になるように、火で精錬された金をわたしから買うがよい。裸の恥をさらさないように、身に着ける白い衣を買い、また、見えるようになるために、目に塗る薬を買うがよい。

3:19 わたしは愛する者を皆、叱ったり、鍛えたりする。だから、熱心に努めよ。悔い改めよ。

3:20 見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたし声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。

3:21 勝利を得る者を、わたしは自分の座に共に座らせよう。わたしが勝利を得て、わたしの父と共にその玉座に着いたのと同じように。

3:22 耳ある者は、『“霊”が諸教会に告げることを聞くがよい。』』

ヨハ 4:6 (新共同訳)

4:6 そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。正午ごろのことである。

ルカ 5:16 (新共同訳)

5:16 だが、イエスは人里離れた所に退いて祈っておられた。

ルカ 6:12 (新共同訳)

6:12 そのころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた。

マコ 1:35 (新共同訳)

1:35 朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた。

マタ 14:23 (新共同訳)

14:23 群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。

3:17 あなたは、自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない。

3:18 そこで、あなたに勧める。富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買い、また、あなたの裸の恥をさらさないため身に着けるように、白い衣を買いなさい。また、見えるようになるため、目にぬる目薬を買いなさい。

3:19 すべてわたしの愛している者を、わたしはしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。

3:20 見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたし声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。

3:21 勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である。

3:22 耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい』』。

ヨハ 4:6 (口語訳)

4:6 そこにヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れを覚えて、そのまま、この井戸のそばにすわっておられた。時は昼の十二時ごろであった。

ルカ 5:16 (口語訳)

5:16 しかしイエスは、寂しい所に退いて祈っておられた。

ルカ 6:12 (口語訳)

6:12 このころ、イエスは祈るために山へ行き、夜を徹して神に祈られた。

マコ 1:35 (口語訳)

1:35 朝はやく、夜の明けるよほど前に、イエスは起きて寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。

マタ 14:23 (口語訳)

14:23 そして群衆を解散させてから、祈るためひそかに山へ登られた。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。

聖書には、私たちと神との関係や、キリストにあって成長することを妨げる障壁について語るメッセージが数多くあります。パウロとイエスの言葉を考えてみましょう。

「だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい」(Iコリ 10:12)。サムソンのように、自己信頼はあなたを倒します。

「偽善者たちが人からほめられようと……するように、自分の前でラッパを吹き鳴らしてはならない」【口語訳「偽善者たちが人にほめられるため……するように、自分の前でラッパを吹きならすな」】(マタ 6:2)。自分がいかに善良であるかと言いふらすのは、やめましょう。イエスのように、謙遜になりましょう。

「しかし、わたしは言うておく。みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。もし、右の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出して捨ててしまいなさい」【口語訳「しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。もしあなたの右の目が罪を犯させるなら、それを抜き出して捨てなさい」】(マタ 5:28, 29)。心から情欲を取り除くために、何でもしてください。情欲は神との関係を阻むからです。

「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量り与えられる」【口語訳「人をさばくな。自分がさばかれたいためである。あなたがたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ、あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられるであろう」】(マタ 7:1, 2)。他人を批判したり、裁いたりするのは、やめましょう。神は裁き主ですから、神に裁いていただきましょう(Iコリ 4:5)。

「しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」【口語訳「しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ」】(マタ 5:44)。敵を憎むのは、やめましょう。ひどい扱いをする人に対して否定的な感情を抱くと、神との関係にたちまち壁を作ってしまう。代わりに、敵のために祈り始めましょう。そうすることで、神との歩みだけでなく、ほかの人との関係にもどんな変化が生じるか、確かめてください。

「しかし、わたしは言うておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける」【口語訳「しかし、わたしはあなたがたに言う。兄弟に対して怒る者は、だれでも裁判を受けねばならない」】(マタ 5:22)。もしかしたら、あなたは身近な人をののしる理由を正当化してきたかもしれません。あなたの怒りは、怒っている相手だけでなく、神との関係にも、どのような影響を与えているでしょうか。これらは、私たちがつまづく原因となるほんの一部です。

問2 イエスは、私たちの手、足、目が私たちに罪を犯させるとき、どうすべきかについて警告されました。イエスは何について警告しておられたのでしょうか。マルコ 9:42~48 を読んでください。

罪を犯す原因だからといって、手や足を切り落としたり、目をえぐり出したりするのは、極端なことです。イエスはあえてそのように語られました。罪と、私たちの人生におけるその影響力を、それほど深刻に捉えておられたのです。

62

I コリ 10:12 (新共同訳)

10:12 だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。

マタ 6:2 (新共同訳)

6:2 だから、あなたは施しをするときには、偽善者たちが人からほめられようと会堂や街角できるように、自分の前でラッパを吹き鳴らしてはならない。はっきりあなたがたに言うておく。彼らは既に報いを受けている。

マタ 5:28、29 (新共同訳)

5:28 しかし、わたしは言うておく。みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。

5:29 もし、右の目があなたをつまずかせるなら、えぐり出して捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである。

マタ 7:1、2 (新共同訳)

7:1 「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。

7:2 あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量り与えられる。

I コリ 4:5 (新共同訳)

4:5 ですから、主が来られるまでは、先走って何も裁いてはいけません。主は闇の中に隠されている秘密を明るみに出し、人の心の企てをも明らかにされます。そのとき、おのおのは神からおほめにあずかります。

マタ 5:44 (新共同訳)

5:44 しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

マタ 5:22 (新共同訳)

5:22 しかし、わたしは言うておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受け

I コリ 10:12 (口語訳)

10:12 だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。

マタ 6:2 (口語訳)

6:2 だから、施しをする時には、偽善者たちが人にほめられるため会堂や町の中でするように、自分の前でラッパを吹き鳴らすな。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。

マタ 5:28、29 (口語訳)

5:28 しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。

5:29 もしあなたの右の目が罪を犯させるなら、それを抜き出して捨てなさい。五体の一部を失っても、全身が地獄に投げ入れられない方が、あなたにとって益である。

マタ 7:1、2 (口語訳)

7:1 人をさばくな。自分がさばかれないためである。

7:2 あなたがたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ、あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられるであろう。

I コリ 4:5 (口語訳)

4:5 だから、主がこられるまでは、何事についても、先走りをしてさばいてはいけない。主は暗い中に隠れていることを明るみに出し、心の中で企てられていることを、あらわにされるであろう。その時には、神からそれぞれほまれを受けるであろう。

マタ 5:44 (口語訳)

5:44 しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。

マタ 5:22 (口語訳)

5:22 しかし、わたしはあなたがたに言う。兄弟に対して怒る者は、だれでも裁

る。兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。

マコ 9:42~48 (新共同訳)

9:42 「わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまずかせる者は、大きな石臼を首に懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がはるかによい。

9:43 もし片方の手があなたをつまずかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両手がそろったまま地獄の消えない火の中に落ちるよりは、片手になっても命にあずかる方がよい。

9:44 †

9:45 もし片方の足があなたをつまずかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両足がそろったまま地獄に投げ込まれるよりは、片足になっても命にあずかる方がよい。

9:46 †

9:47 もし片方の目があなたをつまずかせるなら、えぐり出さなさい。両方の目がそろったまま地獄に投げ込まれるよりは、一つの目になっても神の国に入る方がよい。

9:48 地獄では蛆が尽きることも、火が消えることもない。

判を受けねばならない。兄弟にむかって愚か者と言う者は、議会で引きわたされるであろう。また、ばか者と言う者は、地獄の火に投げ込まれるであろう。

マコ 9:42~48 (口語訳)

9:42 また、わたしを信じるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海に投げ込まれた方が、はるかによい。

9:43 もし、あなたの片手が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろったまま地獄の消えない火の中に落ち込むよりは、片手になっても命に入る方がよい。

9:44 [地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。]

9:45 もし、あなたの片足が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両足がそろったまま地獄に投げ入れられるよりは、片足で命に入る方がよい。

9:46 [地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。]

9:47 もし、あなたの片目が罪を犯させるなら、それを抜き出さなさい。両眼がそろったまま地獄に投げ入れられるよりは、片目になっても神の国に入る方がよい。

9:48 地獄では、うじがつきず、火も消えることがない。

火曜日

5月26日

律法

問3 クリスマンでない人に、あなたは罪をどのように定義し、説明しますか。聖書は罪をどのように説明していますか。ローマ 3:20 と Iヨハネ 3:4 を読んでください。

罪とは、神の律法に背くことであり〔口語訳：罪は不法である〕(Iヨハ 3:4)、罪はまた、私たちの本性に深く根ざしています(詩編 51:7〔口語訳 詩篇 51:5〕、エレ 17:9)。ですから、罪の本質を明らかにするのは律法です。律法は、眼鏡をかけて周りのものをはっきりと見えるようにしたり、鏡を使って自分の本当の姿を映し出したりするようなものです。律法は私たちの人生と品性に明確さと確信をもたらすと同時に、神の品性と神にとって何が大切であるかを教えてくれます。

十戒(出 20:3~17)は、神ご自身の指によって記されました。イエスはその重要性を次のように繰り返し教えられました。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を

尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない」〔口語訳「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これより大事ないましめは、ほかにない」〕(マコ 12:30、31)。そして、こう付け加えました。「律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている」〔口語訳「これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている」〕(マタ 22:40)

シナイ山でイスラエルの人々に、また今日の私たちにも語られた神の言葉は(ヘブ 1:1、2)、律法は関係性に関するものであることを教えています。神は、私たちと神との関係、また私たちとほかの人との関係を守るための安全装置として律法を与えられました。しかし、サタンは神の律法の美しさを歪め、ある人々は律法を重荷と見ています。聖書は、「神を愛するとは、神の掟を守ることです。神の掟は難しいものではありません」〔口語訳「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることであり、その戒めはむずかしいものではない」〕(1ヨハ 5:3)と述べていますが、律法には、愛や自由よりも、しばしば律法主義が付きまとうのです。

(1) 1 から 5 の尺度で答えるとして、生ける御言葉(とその一部である律法)は、あなたにとってどれほど貴重ですか。

(2) 神の律法について考えるとき、それはあなたを束縛するものですか。それとも、強めるものですか。もし前者に当てはまる場合、どうしたら律法をもっと深く理解できるでしょうか。

(3) 神とほかの人への愛という神の律法が、もしあなたの人生、家族、教会の中心に据えられたら、何が起るでしょうか。あなたの人生と人間関係は、どのように変わるでしょうか。

63

ロマ 3:20 (新共同訳)

3:20 なぜなら、律法を実行することによつては、だれ一人神の前で義とされないからです。律法によつては、罪の自覚しか生じないのです。

Iヨハ 3:4 (新共同訳)

3:4 罪を犯す者は皆、法にも背くのです。罪とは、法に背くことです。

詩 51:7 (新共同訳)

51:7 わたしは咎のうちに産み落とされ/母がわたしを身ごもったときも/わたしは罪のうちにあったのです。

エレ 17:9 (新共同訳)

17:9 人の心は何にもまして、とらえ難く病んでいる。誰がそれを知りえようか。

ロマ 3:20 (口語訳)

3:20 なぜなら、律法を行うことによつては、すべての人間は神の前に義とせられないからである。律法によつては、罪の自覚が生じるのみである。

Iヨハ 3:4 (口語訳)

3:4 べて罪を犯す者は、不法を行う者である。罪は不法である。

詩 51:5 (口語訳)

51:5 見よ、わたしは不義のなかに生れました。わたしの母は罪のうちにわたしをみごもりました。

エレ 17:9 (口語訳)

17:9 心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか。

出 20:3~17 (新共同訳)

20:3 あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。

20:4 あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。

20:5 あなたはそれらに向かってひれ伏したり、それらに仕えたりしてはならない。わたしは主、あなたの神。わたしは熱情の神である。わたしを否む者には、父祖の罪を子孫に三代、四代までも問うが、
20:6 わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、幾千代にも及ぶ慈しみを与える。

20:7 あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。みだりにその名を唱える者を主は罰せずにはおかない。

20:8 安息日を心に留め、これを聖別せよ。
20:9 六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、

20:10 七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。

20:11 六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである。

20:12 あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる。

20:13 殺してはならない。

20:14 姦淫してはならない。

20:15 盗んではならない。

20:16 隣人に関して偽証してはならない。

20:17 隣人の家を欲してはならない。隣人の妻、男女の奴隷、牛、ろばなど隣人のものを一切欲してはならない。」

マコ 12:30、31 (新共同訳)

12:30 心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神であ

出 20:3~17 (口語訳)

20:3 あなたはわたしのほかに、なにものもを神としてはならない。

20:4 あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水のなかにあるものの、どんな形をも造ってはならない。

20:5 それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎むものは、父の罪を子に報いて、三、四代に及ぼし、

20:6 わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施して、千代に至るであろう。

20:7 あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱えるものを、罰しないでは置かないであろう。

20:8 安息日を覚えて、これを聖とせよ。
20:9 六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをし、

20:10 七日目はあなたの神、主の安息日であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。

20:11 主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。

20:12 あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。

20:13 あなたは殺してはならない。

20:14 あなたは姦淫してはならない。

20:15 あなたは盗んではならない。

20:16 あなたは隣人について、偽証してはならない。

20:17 あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、しもべ、はしため、牛、ろば、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。」

マコ 12:30、31 (口語訳)

12:30 心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの

る主を愛しなさい。』
12:31 第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。』

マタ 22:40 (新共同訳)

22:40 律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。』

ヘブ 1:1、2 (新共同訳)

1:1 神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、

1:2 この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。

Iヨハ 5:3 (新共同訳)

5:3 神を愛するとは、神の掟を守ることです。神の掟は難しいものではありません。

神を愛せよ』。

12:31 第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ』。これより大事ないましめは、ほかにない。』

マタ 22:40 (口語訳)

22:40 これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている。』

ヘブ 1:1、2 (口語訳)

1:1 神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、

1:2 この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。

Iヨハ 5:3 (口語訳)

5:3 神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである。そして、その戒めはむずかしいものではない。

水曜日 5月27日 律法と福音

イエスご自身が、ご自分と律法との関係をととても力強く、簡潔に説明されました。

問4 マタイ 5:17、18 で、イエスは律法について何と言われましたか。

親がわが子に対して持つ境界線が、その親の価値観を明らかにするのと同じように、神の律法は、神の品性と、神にとって何が大切であるかを私たちに教えています。神は、私たちが神にあって成長するにつれて、ご自分の律法が私たちの人生のあらゆる面を導くことを知っていて、私たちと神との関係や人間同士の関係を守るために、律法を与えられました。結局のところ、律法を破ることである罪が私たち1人ひとりにもたらした恐ろしい結果を経験したことのない人がいるでしょうか。

律法の中心にあるのは、イエスに対する愛です。「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る」〔口語訳「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」〕(ヨハ 14:15)と、イエスは言われました。私たちが心からイエスを愛するなら、自然と神の律法を守らざるをえなくなります。神の律法をはっきりと理解するなら、私たちはイエスをさらに愛さざるをえないと感じます。そして、さらに重要なのは、十字架とキリストの身代わりの死を常に目の前におくことが、神への愛を育む最良の方法だということです。

だからこそ、福音は律法と密接に結びついています。つまり、私たちが律法とそ

れを守ることの重要性をどれほど信じていても、神の前での私たちの法的な立場という点においては、律法は罪を宣告するだけであることを常に覚えておかなければなりません。律法は、赦すことも、義とすることも、あがなうことも決してありません。むしろ律法は、なぜ私たちが赦される必要があるのか、なぜ義とされる必要があるのか、なぜあがなわれる必要があるのかを指摘します。だからこそ、律法と共に、私たちの律法理解の根底にさえ、福音、すなわち私たちの身代わりとしてのキリストの死があるのです。それは、律法では決してなしえないこと、つまり神の前に私たちが義とすることを成し遂げるのです。

次の聖句を読んでください(ロマ 3:28、4:13~16、ガラ 2:16、3:13、フィリ [ピリ] 3:9)。これらの聖句は、私たちが律法主義に陥ることなく律法を守るために、どんなことを教えていますか。

64

マタ 5:17、18 (新共同訳)

5:17 「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである。18 はっきり言うておく。すべてのことが実現し、天地が消えうせるまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない。

ヨハ 14:15 (新共同訳)

14:15 「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。

ロマ 3:28 (新共同訳)

3:28 なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。

ロマ 4:13~16 (新共同訳)

4:13 神はアブラハムやその子孫に世界を受け継がせることを約束されたが、その約束は、律法に基づいてではなく、信仰による義に基づいてなされたのです。14 律法に頼る者が世界を受け継ぐのであれば、信仰はもはや無意味であり、約束は廃止されたこととなります。15 実に、律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違犯もありません。16 従って、信仰によってこそ世界を受け継ぐ者となるのです。恵みによって、アブラハムのすべての子孫、つまり、単に律法に頼る者だけでなく、彼の信仰に従う者も、確実に約束にあずかれるのです。彼はわ

マタ 5:17、18 (口語訳)

5:17 わたしが律法や預言者を廃止するために来た、と思ってはならない。廃止するためではなく、成就するために来たのである。18 よく言うておく。天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされるのである。

ヨハ 14:15 (口語訳)

14:15 もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。

ロマ 3:28 (口語訳)

3:28 わたしたちは、こう思う。人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるのである。

ロマ 4:13~16 (口語訳)

4:13 なぜなら、世界を相続させるとの約束が、アブラハムとその子孫とに対してなされたのは、律法によるのではなく、信仰の義によるからである。14 もし、律法に立つ人々が相続人であるとすれば、信仰はむなしくなり、約束もまた無効になってしまふ。15 いったい、律法は怒りを招くものであって、律法のないところには違反なるものはない。16 このようなわけで、すべては信仰によるのである。それは恵みによるものであって、すべての子孫に、すなわち、律法に立つ者だけでなく、アブラハムの信仰に従う者にも、この約束が保証されるのである。ア

たしたちすべての父です。

ガラ 2:16 (新共同訳)

2:16 けれども、人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の実行ではなく、キリストへの信仰によって義とさせていただくためでした。なぜなら、律法の実行によっては、だれ一人として義とされないからです。

ガラ 3:13 (新共同訳)

3:13 キリストは、わたしたちのために呪いとなって、わたしたちを律法の呪いから贖い出してくださいました。「木にかけられた者は皆呪われている」と書いてあるからです。

フィリ 3:9 (新共同訳)

3:9 キリストの内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。

ブラハムは、神の前で、わたしたちすべての者の父であって、

ガラ 2:16 (口語訳)

2:16 人の義とされるのは律法の行いによるのではなく、ただキリスト・イエスを信じる信仰によることを認めて、わたしたちもキリスト・イエスを信じたのである。それは、律法の行いによるのではなく、キリストを信じる信仰によって義とされるためである。なぜなら、律法の行いによっては、だれひとり義とされることがないからである。

ガラ 3:13 (口語訳)

3:13 キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった。聖書に、「木にかけられる者は、すべてのろわれる」と書いてある。

ピリ 3:9 (口語訳)

3:9 律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。

木曜日 5月28日 知ること「と」行うこと

山上の説教の中で、イエスは関係——ご自身と私たちの関係や人間同士の関係——について多く語っておられます。メッセージの終わりのほうで、彼が言われたことは、非常に痛烈です。「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである」〔口語訳「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである」〕(マテ7:21)。

イエスは、ある人たちは主を呼び求め、明らかに主について知っているにもかかわらず、実際には主を知らないことがあると説明しておられます。言うまでもなく、知識を求めることは重要です。聖書は、神についての知識の欠如や、神についての知識を拒絶したために、神の民が滅ぼされる可能性があるかと教えています(ホセ4:1, 6, 10)。私たちは、時代を超えた聖書の真理の重要性を決して軽視すべきではありません。しかし、そのような知識が私たちを変え、神への献身と神との歩みを深めなければ、それは何の役にも立ちません。

「永遠の命とは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです」〔口語訳「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがたがわされたイエス・キリストとを知ることです」〕(ヨハ17:3)。天

国に入るための前提条件は、神の御心を行い、最終的には神を知ることであり、イエスは言われました。なぜなら、神を知らずして神の御心を行うことはできないからです。これは決定的な要素であり、理にかなった期待です。もしあなたの子どもがあなたを愛していると言い、あなたが頼むことをしてくれるなら、その行動は、あなたへの愛と尊敬の深さをあらわしています。同様に、私たちも神を愛するなら、神の御心を行いたいと思うでしょう。なぜなら、それが私たちにとって最も良いことだと知っているからです！神への私たちの応答、またあふれ出る愛として神に従うことが、神と私たちの関係の本質を示すのです。

問5 山上の説教を締めくくる際に、イエスは痛烈な最後の挑戦を聞き手に残されました。それはどんな挑戦でしたか(マタ 7:24~29 参照)。

イエスのメッセージを心から聞くとき、私たちは挑戦を受け、変化せずにはいられません。しかし、そのためにはまず、私たちの耳が開かれ、心が受容的でなければなりません。そうやってこそ、神との親密な関係の中で生きるための青写真が、呼吸するたびに私たちの魂に刻み込まれるのです。私たちの人生は、岩なる神と、私たちのための神の完璧な計画の上に築かれます。

この親しい関係の青写真は、秘密ではありません。それは神の靈感を受けた御言葉の中に明らかにされており、神はそれをすべての人に示しておられます。

65

マタ 7:21 (新共同訳)

7:21 「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。

ホセ 4:1、6、10 (新共同訳)

4:1 主の言葉を聞き、イスラエルの人々よ。主はこの国の住民を告発される。この国には、誠実さも慈しみも/神を知ることもないからだ。

4:6 わが民は知ることを拒んだので沈黙させられる。お前が知識を退けたので/わたしもお前を退けて/もはや、わたしの祭司とはしない。お前が神の律法を忘れたので/わたしもお前の子らを忘れる。

4:10 彼らは食べても飽き足りることなく、淫行にふけても/子孫を増やすことができない。彼らは淫行を続け/主を捨て、聞き従おうとしなかったからだ。

ヨハ 17:3 (新共同訳)

17:3 永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしに

マタ 7:21 (口語訳)

7:21 わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。

ホセ 4:1、6、10 (口語訳)

4:1 イスラエルの人々よ、主の言葉を聞き。主はこの地に住む者と争われる。この地には真実がなく、愛情がなく、また神を知ることもないからである。

4:6 わたしの民は知識がないために滅ぼされる。あなたは知識を捨てたゆえに、わたしもあなたを捨てて、わたしの祭司としない。あなたはあなたの神の律法を忘れたゆえに、わたしもまたあなたの子らを忘れる。

4:10 彼らは食べても飽くことなく、淫行をなしてもその数を増すことがない。彼らは主を捨てて、淫行を愛したからである。

ヨハ 17:3 (口語訳)

17:3 永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつか

なったイエス・キリストを知ることです。

マタ 7:24~29 (新共同訳)

7:24 「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。

7:25 雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。

7:26 わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。

7:27 雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった。」

7:28 イエスがこれらの

言葉を語り終わられると、群衆はその教えに非常に驚いた。

7:29 彼らの律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。

わされたイエス・キリストとを知ることです。

マタ 7:24~29 (口語訳)

7:24 それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。

7:25 雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない。岩を土台としているからである。

7:26 また、わたしのこれらの言葉を聞いても行わない者を、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができよう。

7:27 雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまう。そしてその倒れ方はひどいのである。」

7:28 イエスがこれらの言を語り終わられると、群衆はその教にひどく驚いた。

7:29 それは律法学者たちのようではなく、権威ある者のように、教えられたからである。

金曜日 5月29日 さらなる研究

サタンが神に対して行った究極の挑戦が律法についてであったことを考えると、律法という主題がこれほど歪められ、誤解されることがあっても、驚くに当たりません。

イエスの時代に、彼は律法を廃止するために来られたのだと考える人たちがいましたが、それはまったくの誤りでした。イエスは律法と神のすばらしい品性に光を当て、それを完成するために来られました(マタ5:17,18)。それは、神がどんなお方であるかを私たちに示すためでした。

「人々の心の中に神の聖なる言葉に対する尊敬があつてこそ、初めて彼らは神の御心を達成することを望むことができるのであった。ダビデの治世とソロモンの治世の初期にイスラエルに力を与えたのは、神の律法が尊ばれていたからであった。また、エリヤやヨシヤの時代に改革が行われたのも、生ける言葉に対する信仰によってであった」(『希望への光』562 ページ、『国と指導者』第38章)。

話し合いのための質問

- ① 世俗文化は罪をどのように見えていますか。私たちの教会はどう対応すべきでしょうか。

- ② 神との関係や他者との関係を罪がどのように破壊するか、あなたはいつ直接目にしましたか。
- ③ あなたの人生において、神の律法に従うことは容易でしたか。それとも、困難でしたか。そのことに影響を与えた要因は何ですか。
- ④ セブンスデー・アドベンチストとして、その名が示すとおり、律法を真剣に受け止めている私たちは、律法主義の罫、つまり救われるために律法を守ることに頼るという罫を、どうすれば避けることができますか(想像してみてください。裁きの日に、あなたのすべての罪が聖なる完全な神の前で裁かれるとき、あなたは何に頼るでしょうか。あなたが律法を守ったことでしょうか。それとも、あなた自身の義ではなくイエスの完全な義に頼ることでしょうか)。
- ⑤ 知識(あるいは、知識の欠如)は、神との関係にどんな影響を与えますか(箴言 24:3、13、14 参照)。

話し合いのためのヒント： 私たちの人生は罪に染まっており、罪は私たちが神から引き離します。しかし神は、私たちが思いを尽くし、心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして神を知り、愛するように招いておられます。私たちがそうするなら、自然と他者への愛も深まります。神の律法は神の品性を美しく反映しており、私たちがこの律法を理解するなら、私たちと神との関係は、より強くなります。

66

マタ 5:17、18 (新共同訳)

5:17 「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである。

5:18 はっきり言うておく。すべてのことが実現し、天地が消えうせるまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない。

箴 24:3、13、14 (新共同訳)

24:3 家は知恵によって築かれ、英知によって固く立つ。

24:13 わが子よ、蜜を食べてみよ、それは美味だ。滴る蜜は口に甘い。

24:14 そのように、魂にとって知恵は美味だと知れ。それを見いだすなら、確かに未来はある。あなたの希望が断たれることはない。

マタ 5:17、18 (口語訳)

5:17 わたしが律法や預言者を廃止するために来た、と思ってはならない。廃止するためではなく、成就するために来たのである。

5:18 よく言うておく。天地が減び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされるのである。

箴 24:3、13、14 (口語訳)

24:3 家は知恵によって建てられ、悟りによって堅くせられ、

24:13 わが子よ、蜜を食べよ、これは良いものである、また、蜂の巣のしたたりはあなたの口に甘い。

24:14 知恵もあなたの魂にはそのようであることを知れ。それを得るならば、かならず報いがある、あなたの望みは、すたらない。